



人類に奉仕するロータリー

第2730地区

鹿児島西ロータリークラブ

*John*

2016-17年度  
国際ロータリー会長  
ジョン F. ジャーム

第2620回例会

January ~1月は職業奉仕月間~

平成29年1月18日

● 例会場 〒892-0828 鹿児島市金生町3-1 山形屋7F 社交室 毎週水曜日 12:30~13:30  
● 事務所 〒892-0828 鹿児島市金生町3-13-5F TEL:099-223-5902 FAX:099-223-7507

会長 天本 美信  
幹事 山之氏秀行  
会報雑誌委員長 寺田 賢司

本日の主要  
プログラム

## クラブフォーラム(職業奉仕)

- ① ロータリーソング(我等の生業)
- ② 会長あいさつ
- ③ 会務報告
- ④ 出席報告
- ⑤ ニコニコBOX披露

今月は職業奉仕月間です。先のIMは、大重ガバナーが重点テーマとしておられる職業奉仕を考えるよい機会であったとおもいます。基調講演をされた久保田茂さんのお話の中にも自分の職業を通しての職業奉仕を考えるヒントがありました。

新年明けての一回目は染川先輩のスピーチです。よろしくお祈いします。(天本)

### 5分間スピーチ ⑬ UCL and the Pioneers of Modern Japan 会員 染川 周郎

## UCL and the Pioneers of Modern Japan

In the garden to your left is the Japan Monument, which celebrates two groups of young Japanese men who studied at UCL from 1863 and 1865, and afterwards played extraordinary roles in the history of modern Japan. They were not only the first Japanese students to enrol at UCL, but were also the first to study outside their country. The result was a strong and lasting connection between UCL and Japan.



The world's first monument, produced in 1863 by the artist William Stanbury, which Shogun Ishikawa Homoyasu erected inside the Froyer's Palace on the island of foreign embassies, Country UCL Art Museum.

The monument symbolises this enduring relationship: it was made possible by the Anglo-Japanese Friendship Society and the Japan-British Mercantile Club, and unveiled by Mr Husho Kitamura, Ambassador of Japan, on 2nd September 1993.

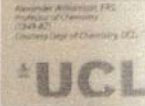
**Sakoku**  
A hundred and fifty years ago, Japan was a feudal state operating a policy of political and cultural isolation: alien visitors to their country's shores were treated with suspicion, and any attempt to leave was punishable by death. In 1853, following international bellicose pressure, Japanese ports opened up to foreign trade, and conflict-ridden Japanese nationalists were determined to protect their frontiers from foreign influence, and one of their supporters murdered a British merchant. In response, the British Royal Navy opened fire on the Japanese city of Kagoshima in 1853, leaving it in ruins.



The Choshu 5 in 1863. From left to right: Kamekura, Kishida, Otsu, Matsuda, and Kamekura. Courtesy University of Glasgow Archives.

**The Choshu 5**  
The Japanese had never before seen ships and guns like those used by the British and some were curious to learn more. Five intrepid noblemen from the Choshu clan secretly approached an agent from the Hong Kong-based company Jardine Matheson. They signed up as apprentice learners with the Merchant Navy onboard a ship bound for England.

**Professor Williamson**  
Jardine Matheson - the trading company smuggling the Japanese group to England - contacted Augustus Provost, a member of UCL, who recommended that Alexander Williamson, Professor of Chemistry, enrol them at the university. During their time in England, they studied Analytical Chemistry and stayed with the Williamson family in Professor Hill.



Alexander Williamson FRS, Professor of Chemistry, UCL. Courtesy Dept of Chemistry, UCL.

**The Satsuma 14**  
Two years after the Choshu group, another group - this time from the Satsuma clan - also decided to leave for England. Their group had a high military post and soon boarded ships bound for England. Upon their arrival in 1865, they were also directed to UCL, where they too were greeted by Professor Williamson in the Department of Chemistry.



The Satsuma 14 group, 1865. Courtesy University of Glasgow Archives.

**A radical university**  
At this time, UCL was the only university in England open to students of all races, religions and social standing and considered the only place open to the Japanese students. Professor William arranged for them to visit industrial sites to study railway engineering, shipbuilding and surveying. The students acquired a sound knowledge of British industry and commerce, which they later applied to the development of their own country.



Portrait of a young Japanese man, likely a student.

**Leaders of a new Japan**  
Following their return, many played crucial roles in founding the new Meiji government which replaced the feudal regime and transformed Japan into a modern nation. Iwakura Matsudaira became the first Prime Minister, and the field marshal Iino Enryu became Secretary of State in the Ministry of Industries, established an art college and a school for deaf and blind pupils. Anon Non became Minister for Education, Kinsuke Endo was the first Minister of the Shintu Office, and others went on to set up the country's first museum, railway and postal academy.



Illustration of a building, likely UCL.

久保田茂さんのお話の中にも自分の職業を通しての職業奉仕を考えるヒントがありました。



■ 前回の例会(1月11日)の報告

会員数	75 (70) 名
出席数	46 名
出席率	65.71 %

■ 前々回の例会(12月28日)の訂正

出席率	58.82 %
訂正出席数	48 名
訂正出席率	70.59 %

前回の例会記録 (1月11日分)

〈プログラム〉

鹿児島市内RC新春合同例会(12:30~鹿児島サンロイヤルホテル)

〈ゲスト〉

鹿児島県副知事 小林 洋子 様  
RI第2730地区ガバナー 大重 勝弘 様

◎出席数 327名(423名中)会員出席率 84.94%



鹿児島市内分区新年合同例会 ガバナー挨拶



国際ロータリー第2730地区  
ガバナー 大重 勝弘 様

明けましておめでとうございます。本日は鹿児島市内分区の新年合同例会にお招きいただきまして、有難うございます。

公式訪問と地区大会を無事に終了できました。皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。

ガバナー公式訪問では、殆どのクラブが会員増強に頭を悩ませていることから、会員増強を第一に取り上げてきました。折角一人また一人と増やしても、毎年年度末になると大勢の退会者が出ます。これではザルで水をくむようなもので会員は増えない。また、これに対する対策もなされていない。退会者の内訳をみると、新入会員が大半を占めている。退会の原因はロータリーが解らないことであろうと推察し、①ロータリーを解り易く教える事とした。ところが退会者の中に会長経験者が含まれてはいる。これは単にロータリーが解らないで辞めるのではなく、ロータリーの良さが解らないで辞めるのだと思われるので、これに対してはロータリーの恩恵、即ち Profits を総ての会員に実感してもらう以外にはない。

その為には職業奉仕の実践をして会員の事業所を繁栄・発展させて Profits を実感してもらう。そして職業奉仕の標語である：He profits most who serves best を実行する。

ロータリーの例会に「職業奉仕の時間」を設けて全会員が知恵を出し合って「サービス」について勉強をする。

五大奉仕の中で一番解り難い職業奉仕を解り易くする方法として、「職業奉仕」→「職業に奉仕」職業と奉仕の間にひらがなの「に」の字を入れる。

ロータリーの会員は殆どが事業主である。自分の事業所を繁栄・発展させて、足場が安定しないと十分な奉仕活動はできない。まず自分の事業所を繁栄・発展させることが先決である。

次に今年度のIMは、全ての分区で「職業奉仕の実践」に議題を統一し、久保田オートパーツの久保田茂氏に講演をいただきます。昨年11月に久保田さんの話を枕崎で聞き、素晴らしい話だったので、IMこれで行こうと決心しました。この話をロータリアンだけで聞くのは勿体ないので、JC、商工会議所、婦人団体、その他に公開し、その後の懇親会も一緒にします。ロータリーを一般社会にPRし、知ってもらう絶好の機会であり、会員増強のチャンスでもある。

いよいよ後半を迎えました。クラブの例会に「職業奉仕の時間」を設けて、例会の内容を充実し、会員各自の事業所の繁

栄・発展を図り、これが会員増強に繋がるように頑張らましよう。そしてロータリーを楽しもう。

鹿児島市内分区新春合同例会 会長挨拶

鹿児島城西ロータリークラブ  
会長 野田 健太郎 様

鹿児島市内分区のロータリアンの皆さん、新年おめでとうございます。お集りの皆様には、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

また、本日は、鹿児島県副知事小林洋子様並びに第2730地区ガバナー大重勝弘様にお越しいただきました。新年のご多用のなか、ご出席賜り厚く御礼申し上げます。

さて、アメリカのトランプ大統領の就任も間近となり、世界の大企業が振り回されているようですが、昨年は、鹿児島で、東京で、そしてアメリカ、ヨーロッパでトップの交代が続く、その動きは今年も続きそうです。この変化によりどのような進歩が私たちの社会に刻まれていくのか大いに注目したいところですが、一方で、このような変化に無縁にみえるISなどのテロ行為の悲惨な現場や、空爆により崩壊した街で泣き叫ぶ住民、国を離れなければならなくなった幼い子供たちを含む難民の群れ、あるいは、熊本地震で崩壊した街や山肌、巨大な竜巻や台風により一変した町などの映像が報道され、絶えることがありませんでした。

また、一見平穏に見える私たちの社会でも、子供の貧困、高齢者の孤立、あるいは世代間、地域間の格差の拡大など多くの問題が指摘されながら、なかなか対応が追い付かない状況が続いています。

ロータリーは、奉仕の理念の下、自分たちの職業に、そして、社会に、国際理解に、また、青少年の育成に奉仕することをモットーとしていますが、私たちの奉仕の行動を待つ社会のニーズはいたる所にあるといえるでしょう。

ロータリーでは、今年、ロータリー財団100周年を祝います。100年前の1917年にアトランタで開かれたロータリーの大会で、時の会長アーチ・クランプは、「私たちは自分のためだけに生きるべきではありません。誰かのために良いことをする喜びのために生きるべきです。」と呼びかけ、「よいことをする」(doing good) ための基金を提唱しました。これに応じて26ドル50セントの寄付が寄せられたのを嚆矢として寄付が寄せられ、1928年にはロータリー財団と名称がつけられました。ご承知のように、財団はその後発展を遂げ、国際親善奨学金などの教育プロジェクト、ポリオ撲滅を目指すポリオプラスに代表される保健プロジェクトなど、多くのプロジェクトを実現してきました。その財団は100周年を迎えるのを契機に、ロータリアンの多様な活動を支援し、継続的に活力が維持されていくように、地区の資金利用の自由度を高めるなどの制度の整備が行われています。

ロータリーの活動は、近年少し停滞しているようにも見えますが、先に述べたように、奉仕を求めるニーズは身近なところから世界的な規模まで、いたるところに見出せそうです。このロータリー財団100周年の年に当たり、私たちは今一度ロータリーの奉仕の理念を思い起こし、ロータリアンとしての、そしてロータリークラブとしてのあらたな行動を起こしたいものだと思います。

最後に、この一年が皆様とご家族並びに従業員の皆さんにとって、より良い行動の年となることを祈念して、ご挨拶いたします。

次週予告

1月25日(水) 12:30~ 山形屋  
優良従業員表彰

市内RC例会プログラム

東RC	1月19日(木)	会員卓話 有村 茂樹 君・東 洋一 君	サンデイズ 鹿児島
北RC	1月19日(木)	職場訪問例会(川商ハウス)	レンプラント 鹿児島
サザンランド RC	1月19日(木)	クラブ協議会 (上期報告・下期計画)	東急 REI
鹿RC	1月20日(金)	ゲスト卓話 南洲神社 宮司 鶴田 伊都雄 様	山形屋

中央RC	1月23日(月)	クラブ協議会 (上期の報告と下期の計画)	山形屋
東南RC	1月24日(火)	会員卓話	サンロイヤル
城西RC	1月24日(火)	会員卓話	東急REI
南RC	1月25日(水)	第6回クラブ協議会 (上期報告・下期計画)	サンロイヤル
西南RC	1月25日(水)	夜の例会	ゆうづき

鹿児島西RC

Eメール・アドレス info@kagoshima-w-rc.jp  
ホームページ・アドレス http://www.kagoshima-w-rc.jp/

RIのホームページアドレス http://www.rotary.org/  
日本のホームページアドレス http://www.rotary.or.jp/  
第2730地区ホームページアドレス http://www.2730rc.jp/

